



70th Anniversary

清新

市川市立富貴島小学校
学校だより No 7
令和3年11月17日



学校ホームページ

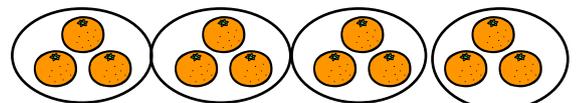
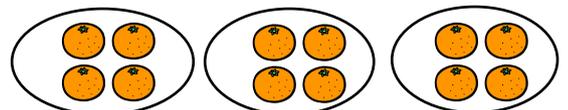
九九を覚えるだけではない 「かけ算」の学習

かけ算の学習と聞くと、「二二が四、二三が六…」という九九の暗唱が浮かびますが、それは学習のほんの一部です。かけ算の学習には、いくつかの段階があります。

初めてかけ算を学習する2年生にとって、かけ算とはどのような計算なのかという「かけ算の意味を理解する」ことが大切です。例えば、 3×4 と 4×3 の答えは同じですが、かけ算の意味は同じではありません。答えが合っていればよいということではなく、(1つ分) (いくつ分) が何にあたるのかを考えることは、4、5年生の割合の学習にもつながります。

また、考える力を育てるためには、児童がかけ算の答えを自分で考えることが大切です。これが「かけ算を構成する」ことにあたります。これは児童が自分でかけ算を作っていく活動のことで、例えば、6の段のかけ算の答えは、次のような方法で考えていきます。

- ① かけ算の意味を理解する
- ② かけ算を構成する
- ③ かけ算のきまりを見つける
- ④ 九九を覚える
- ⑤ 練習問題 (文章問題) をする

3個のまとまりが4つ → $3 \times 4 = 12$ 4個のまとまりが3つ → $4 \times 3 = 12$

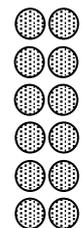
$$\begin{aligned} 6 \times 1 &= 6 \\ 6 \times 2 &= 6 + 6 = 12 \\ 6 \times 3 &= 6 + 6 + 6 = 18 \\ 6 \times 4 &= 6 + 6 + 6 + 6 = 24 \\ 6 \times 5 &= 6 + 6 + 6 + 6 + 6 = 30 \end{aligned}$$

$\times 2$ は2回、 $\times 3$ は3回、6をたしていくことなので、たし算で答えを出す。

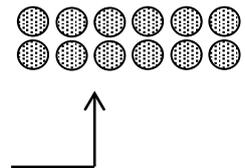
$$\begin{aligned} 6 \times 2 &= 2 \times 6 = 12 \\ 6 \times 3 &= 3 \times 6 = 18 \\ 6 \times 4 &= 4 \times 6 = 24 \\ 6 \times 5 &= 5 \times 6 = 30 \end{aligned}$$

2～5の段は習っているので、 $\times 5$ までは交換法則を使って答えを出す。

6×2

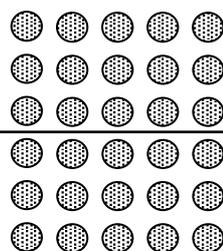


2×6



$$\begin{aligned} 6 \times 1 &= 6 \\ 6 \times 2 &= 6 + 6 = 12 \\ 6 \times 3 &= 12 + 6 = 18 \\ 6 \times 4 &= 18 + 6 = 24 \\ 6 \times 5 &= 24 + 6 = 30 \end{aligned}$$

6ずつ増えるので、一つ前の答えに6をたして答えを出す。



$3 \times 5 = 15$

$3 \times 5 = 15$

(6×5の場合)

分配法則を使い

6×5を3×5に

分けて答えを出す。

九九を覚えるだけなら、もっと小さな子どもでもできるでしょう。しかし、意味も分からずに暗唱をしても考える力は育ちません。かけ算の学習を通して、なぜそうなるのかということを考えること、すなわち思考力を高めていくことが大切です。